授業デザイン

教科・科目：地歴公民・日本史Ｂ　　令和２年１１月６日（金）

実施学級：２－１(男子13名・女子18名)
実施場所：２－１教室
単元名　：第一次世界大戦と日本　　３／３時

１　本時の指導目標	①第一次世界大戦が国内の経済・社会に与えた影響について、理解する。 ②特に久留米に設置された俘虜収容所をとおして、地域に与えた影響を多面的・多角的に考察して、表現することができる。
２　本時の手立て	生徒が俘虜収容所について調査した内容を班別に発表し、教師(川島・九州大学今井宏昌先生)の助言を受けることで、多面的・多角的に理解を深める。
３「深い学び」に導くための問い	問い 「俘虜収容所が久留米に与えた影響はどのようなものだったのだろうか」 <俘虜収容所の概要> 　久留米市内の梅林寺・香霞園など5か所に設置され、現在は残っていない。第一次大戦中に佐賀と久留米で誘致を争い、陸軍48連隊の設置など軍都の機能を有していた久留米に設置された。時期によって変動があるものの、最大約1300名の俘虜が収容された。初期は、俘虜の自由が少ない圧政が行われたが、講和の雰囲気が高まると次第に自由が許されるようになった。俘虜は、サッカー等のスポーツや高良山の遠足などある程度の自由が許され、明善高校体育館や久留米高等女学校で交響曲の演奏を行っている。講和成立後に多くの俘虜が帰国する中で、数名の将校は日本に残り「朝日ゴム」や「つちや足袋」に勤務し、技術指導を行った。また、この収容所では久留米市内約20店舗が生活必需品の他、ビール・煙草等を販売し、年間約23万円の利益を計上している。これは、同時期の久留米市の歳入21万円を上回るものであった。 　また、平成9年以降の久留米市教育委員会による聞き取り調査によると、当時の久留米市民がドイツ人俘虜に対して悪意や憎悪を感じていたという情報はなく、むしろ好意的な回想の方が多い。 　このように久留米市のドイツ人俘虜収容所を題材にして、第一次大戦が国内の経済・社会に与えた影響について、多面的・多角的な考察を試みる。
	問いのレベル **□Ｉレベル　Ideas　知識、技能の習得** （基本的な事項、基礎的な事実関係、定義、基本的な概念等を確認するような問い） **□Ｃレベル　Connections　既知の知識・概念や他領域とのつながり** （教科の既習内容、他教科の内容、実生活の内容などと、学んだことの関係やつながりを理解させる、あるいはそれらとつなげて説明させるような問い） **■Ｅレベル　Extensions　応用、活用** （学んだことを全く新しい状況に応用させるような問い。答えが一つに定まらない問い。リアリティがあり、他者性を前提とした問い）

４　学習の展開			
学習活動		指導上の留意点	評価方法
導入 3分	●本時の目標を提示する ・発表の準備を行う 発表する班は、教室前方へ移動 その他の班は、机上に資料を準備 ［資料］B4用紙5枚(班別の調査結果を冊子化したもの)	・発表上の注意点を説明する。 1　発表は5分が目安であること 2　発表後に質疑応答を設けていること 3　質疑応答の解答に窮した場合は、今井先生に答えていただくこともできること	
展開 45分	●班別で発表を行う ［発表テーマ］ A 俘虜の生活(生活の様子 等) B 俘虜の活動(音楽・スポーツ 等) C 俘虜が久留米に与えた影響 (ゴム産業・収益 等) D 市民から見たドイツ人俘虜 ・発表後にそれぞれ質疑応答を行う ●今井先生から補足を聞く ・ZOOMによる補足を聞き、自分の資料に適宜メモを取る		
まとめ 2分	●学習のまとめと振り返りをする ・教師(川島)は、発表内容を総括してまとめを行う ・生徒は、授業のふり返りをシートに記入した上で提出する	[まとめ] 本時に向けてさまざまな角度から調査を行い、多くのドイツ人俘虜が久留米で生活していたことを知り、彼らが地域の社会に与えた影響を考察した。また、教科書で学んだ大戦景気とは、違った側面の経済的影響が久留米にはみられた。このように第一次大戦が国内の社会や経済に与えた影響は、多様なものがあった。 ・時間がない場合は、後日提出する	シート提出